

筑波大学博士(言語学)学位請求論文

# 日本語談話標識の機能

富 樫 純 一

## 目次

---

序章	考察対象 / 先行研究概観 / 理論的前提	1
0.	はじめに	1
1.	本論文で扱う現象	3
2.	先行研究概観	5
2.1.	情報とはいったい何かという問題	6
2.1.1.	旧 / 新情報と情報のなわ張り 情報の二項対立的分類	10
2.1.2.	意識レベルでの情報 activation states	15
2.2.	聞き手とはいったい何かという問題	17
2.2.1.	会話における聞き手	18
2.2.2.	情報における聞き手	20
2.2.2.1.	相互知識の無限遡及 mutual knowledge paradox	20
2.2.2.2.	独り言とは何か	23
2.2.2.3.	談話管理理論	25
2.3.	言語表現形式へのアプローチ	30
2.3.1.	感動詞・応答詞へのアプローチ	30
2.3.2.	終助詞へのアプローチ	33
2.4.	先行研究のまとめ	36
3.	前提となる概念の規定	37
3.1.	用語の規定	37
3.1.1.	談話標識	37
3.1.2.	独り言 / 話し手 / 聞き手	39
3.2.	理論的な前提	41
3.2.1.	方法論	41
3.2.2.	心内領域の設定とそのシステム	42

3.2.3. 語用論的フィードバック	
話し手と聞き手の新たな関係性を求めて	48
4. 本章のまとめ / 本論文全体の構成について	52
第一章 「ふーん」「へえ」「ほう」の機能	54
0. 問題の所在	54
1. 先行研究 / 考察対象	56
1.1. 先行研究	56
1.2. 考察対象	60
2. 現象の検討	61
2.1. 独り言	62
2.2. 出現位置・繰り返し	63
2.3. 後続の発話	65
2.4. 「へえ」と「ほう」について	69
3. 機能記述	72
3.1. 理論的前提	71
3.2. 「ふーん」の本質的機能	73
3.3. 「へえ」「ほう」との比較	78
4. 「ふーん」「へえ」「ほう」の解釈と語用論的效果	81
5. おわりに	86
第二章 「え？」と「は？」の機能的な差異	87
0. 問題の所在	87
1. 先行研究 / 考察対象	89
1.1. 先行研究	90
1.2. 考察対象	95
2. 現象の観察	97

2.1. 「え？」と「は？」に共通する制約	97
2.1.1. 発話位置	97
2.1.2. 直前の発話	99
2.2. 「は？」に関する制約について 「え？」との比較から	100
2.2.1. 独り言での発話	100
2.2.2. 「は？」の+ 制約	102
2.2.3. ポライトネスとの関係	105
3. 「え？」と「は？」の本質的な機能	106
3.1. 理論的前提	106
3.2. 本質的な機能	108
4. 「え？」と「は？」の解釈と効果	113
4.1. 「聞き返す」ことの意味	114
4.2. 「驚き・意外」解釈の発現 語用論的フィードバック	114
5. おわりに	117
第三章 「まあ」の本質的な機能について	118
0. 問題の所在	118
1. 先行研究	119
2. 考察対象	122
3. 現象の観察	125
3.1. 「まあ」が使用可能となる条件	123
3.2. 「まあ」の出現位置	127
3.3. 独り言による「まあ」発話	130
4. 「まあ」の本質的な機能	131
5. 「まあ」の発話の解釈と効果	134
5.1. 相手に対しての働きかけを示す「まあ」	134
5.2. 解釈と意図的な使用	137
5.3. 驚きと自慢の表出について	140
6. おわりに	141

第四章	非文末「ですね」の情報处理的側面について	143
0.	問題の所在	143
1.	考察対象	146
2.	先行研究概観	147
2.1.	「ですね」形式に関するもの	147
2.2.	終助詞全般に関するもの	151
3.	現象の観察と傾向	152
3.1.	発話位置 / 繰り返し	153
3.2.	あいづちとの関係	154
3.3.	検索標識との関係	156
3.4.	何らかの曖昧さを示す表現との関係	159
3.5.	検索標識に直接付く場合	162
3.6.	現象の観察のまとめ 非文末「ですね」の傾向性	165
4.	非文末「ですね」はどのような機能を担っているか	166
4.1.	情報处理的な側面	166
4.2.	相手に与える / 相手が解釈する効果 談話進行的な側面	171
4.3.	効果と使用のバランス	173
5.	おわりに	175
第五章	「はい」と「うん」の関係をめぐって	177
0.	問題の所在	177
1.	応答表現に関する先行研究	179
2.	考察対象	182
3.	現象の観察	184
3.1.	あいづち表現に用いられる「はい」「うん」	184
3.2.	応答に用いられる「はい」「うん」	188
3.3.	トピックの切れ目に現れる「はい」「うん」	192
3.4.	繰り返して用いられる場合 「はいはい」「うんうん」	195

4. 「はい」「うん」の本質とは .....	198
4.1. 機能記述から見た「はい」「うん」 .....	198
4.2. 「はい」と「うん」の違いは何か .....	201
5. 解釈と効果 何故「はい」と「うん」に丁寧さの違いが生じるのか .....	206
6. おわりに .....	210
第六章 否定応答表現の諸相 .....	211
0. 問題の所在 .....	211
1. 否定応答に関する先行研究 .....	212
2. 考察対象 .....	218
3. 現象の観察 .....	222
3.1. 概観 .....	222
3.2. 「いえ」と「いや」 .....	225
3.3. 「いえ」と「いいえ」 .....	229
3.4. 「ううん」について .....	232
3.5. 否定応答ではない用法について .....	235
3.6. 観察のまとめ .....	237
4. 否定応答表現形式の機能 何の否定を標示するのか .....	239
4.1. 否定するとはいったいどういう行為か .....	239
4.2. 「いいえ」 .....	241
4.3. 「いや」 .....	244
4.4. 「いえ」 .....	245
4.5. 「ううん」 .....	248
4.6. 語用論的フィードバックによる効果 .....	250
5. 他の表現形式との関係 .....	252
5.1. 肯定応答表現形式との関係 .....	252
5.2. 聞き返し表現形式との関係 .....	253
6. おわりに .....	255

終章 課題／展望 .....	256
0. 本論文での成果 .....	256
1. 課題と展望 .....	262
参考文献一覧.....	264
各章と既発表論文との関係.....	278